

令和7年度全国学力学習状況調査の結果

京都市立宕陰小中学校 前期課程（小学校）

本年度の全国学力学習状況調査（6年生対象）の結果が文部科学省より届き、京都市及び本校の特徴が明らかになりました。



国語科

京都市の平均正答率は、すべての問題で全国平均を上回る良好な結果となりました。本校としましても「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」が全国平均を上回る結果となりました。領域別では、全国的な傾向と同様、「読むこと」において、その他の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」）と比較すると低い正答率でした。本校では、「書くこと」「我が国の言語文化に関する事項」が正答率の低い結果となりました。

今後は、読む目的や話し合う目的を明確にし、「書くこと」を意識して視点を絞った具体的な振り返りをしていくことで、深い学びになるよう、授業改善を進めていきます。また、漢字大会等の実施により、漢字の定着を図っていきます。

算数科

京都市の平均正答率は、1問を除き全国平均を上回る良好な結果となりました。また、問題形式では、記述式が全国平均を大きく上回る結果となりました。領域別で比較すると、全国平均と京都市同様「測定」において、その他の領域（「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」）と比較するとやや低い正答率でした。本校では、「変化と関係」が全国平均を上回る結果となりました。

今後も四則計算がしっかりと定着するように計算大会を継続していきます。また、立式の意味を大切にしながら、問題に数多く取り組むことを励行します。また、求め方や立式の説明を書くことも授業改善として大切にしていきたいと思います。

理科

京都市の平均正答率は、全国平均を大きく上回る良好な結果となりました。領域別では、全国的な傾向と同様、「エネルギー」を柱とする領域において、その他の領域（「粒子」「生命」「地球」）と比較すると低い正答率でした。本校におきましても、「エネルギー」の領域の正答率が低い一方、「地球」の領域において、全国平均と同様の正答率でした。

今後も、問題解決の8つのステップを大切にしながら、自分の考えを言葉に表出する学習を進めていきたいと思います。

学習状況等についての質問紙調査から

京都市の経年比較での結果によりますと、全ての小学校・前期課程において、日々の授業において、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて授業改善を図っていることが表っていました。

本校におきましても、質問紙調査にある、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」「ICT機器で文章を作成することができる」など、本校が総合的な学習の時間に取り組んでいる「宕陰キラキラ TalkingTime」に関連した質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答率が高い結果でした。本校の探究学習成果が表れていることが分かりました。

今後もへき地小規模校の良さを大切にした個に応じた指導や取組を進めてまいります。各ご家庭・地域の皆様におかれましては、今後とも、子どもたちの健やかな育ちと学びのための環境づくりにご協力をお願い致します。